

# 緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.154

発行:平成 27年 6月 1日



## 講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

「ハンギングバスケットづくり」<sup>◎</sup> ¥2,500

とき 平成27年6月7日(日)  
午後 1:30~3:30 定員各20名  
講師 北海道フラワーマスター山本裕美さん



「庭木の剪定」-ツツジ類など-花木

とき 平成27年6月28日(日)  
午後 1:30~3:30 定員20名  
講師 公園緑地協会職員



「植物の病気と害虫と農薬の正しい使い方」

とき 平成27年7月5日(日)  
午後 1:30~3:30 定員30名  
講師 緑のセンター相談員



「観葉植物の寄せ植え」<sup>◎</sup> ¥1,000

とき 平成27年7月12日(日)  
午後 1:30~3:30 定員20名  
講師 緑のセンター相談員



◎連続講座のお知らせ 13:30~15:30

「美味しく育てる秋野菜づくり講座」

全3回 7月18日(土)、8月22日(土)、9月26日(土)  
定員20名 ※お申込みは6月20日から<sup>◎</sup>1,000円

全3回出席可能の方

◎連続講座のお知らせ ☆9:30~11:30

「夏休みに子どもとつくる花の鉢植え講座」

全3回 8月8日(土)、8月12日(水)、8月15日(土)  
定員10組 ※お申込みは7月20日から<sup>◎</sup>1,500円

4年生以上と保護者

※連続講座の講師は緑の相談員が担当いたします。



## 展示会・その他のご案内

(初日は午後から、最終日は4時まで)

【緑のセンターまつり 2015】 平成27年8月2日(日) 10:00~16:00

緑のセンター・神楽岡公園



\*催し物:青空体験教室、花と緑の相談コーナー、園芸市、ビンゴゲーム、親子もちつき大会  
農産物即売、納涼ビアガーデン、神楽岡太鼓、よさこいソーラン演舞

\*展示会:洋ラン、ミニ盆栽、山野草、石花盆景、押し花(即売もあります)

※午前・午後に各先着200名様に鉢花のプレゼントを差し上げます。



屋台あり



BINGO ゲームでステキな鉢花の景品当たります!



花フェア2015 6月10日~14日

・会場:大雪アリーナ

【花と緑の】10時~16時

野点のお楽しみ:6月13日(土)

・会場:クリスタルパーク

10時~14時 ☆先着100名様

“無料”ご招待!

【展示会】「温室の植物写真展」6月13日~7月20日

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

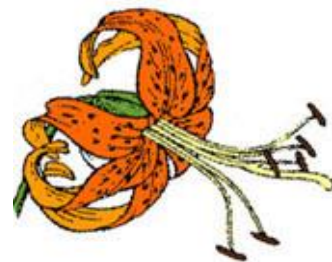
11月~3月は毎週月曜日が休館日です。( " )



## 〈園芸の基礎知識〉 花の仕組みと役割

～ 雌雄同花(両性花)と雌雄異花 ～

■雌雄同花(両性花):一つの花に雌しべと雄しべがある花で、ほとんどの花がこのタイプです。右のオニユリの花では、真ん中に雌しべ一本とそれを取り囲むように6本の雄しべがあります。一つの花に雌と雄の両方の機能が備わっているため雌雄同花(両性花)と呼びます。



自家受粉(同じ個体の花粉で受精すること)を少なくするため、昆虫がやってくるとまず雌しべに接触し、花粉がつきます。蜜を求めてさらに花の中心部に近づくと雄しべに触り、花粉が体について他の花に運ばれます。虫媒花の花粉の表面は虫の体につきやすいようにねばねばしています。ユリは粘り気が強く、衣類につくと洗濯しても落ちないほどで、販売用は雄しべが切り取られています。とくにカサブランカのように白い花はこげ茶色の花粉が花びらにつくと汚くなるので、汚れを防ぐ意味もあるようです。

■雌雄異花:一つの個体(株)に雌しべだけの雌花と雄しべだけの雄花を咲かせる植物を雌雄異花といいます。雄花と雌花を同一の株につける植物には野菜では、キュウリ、かぼちゃ、スイカ、野草ではカラスウリなどがあります。ドングリがなるブナ科のクリ、コナラ、クヌギ、カシの仲間。カバノキ科のハンノキ、シラカバ、シデの仲間。花粉アレルギーの原因になっているマツ科のマツ、スギ、カヤの仲間など身近に雄花と雌花とに分かれている植物がたくさんあります。



キュウリの雄花



キュウリの雌花

(参考資料:bigiobe「花にも雄と雌がある」ほか)

## 緑の相談 Q&A (27)

キョウチクトウの鉢物を持っていますが、知人から猛毒があると聞かされました。本当でしょうか？

キョウチクトウはキョウチクトウ科ネリウム属のインド原産の花木です。強い日射しを好み、南九州以南の亜熱帯に生息していますが、最近では東北南部でも庭木に用いている例があります。

キョウチクトウ属の多くが有毒植物です。キョウチクトウは優れた園芸植物ですが、強い経口毒性がありますので、野外活動の際に調理に用いたり、幼児やペットが口にしないよう注意が必要です。花、葉、枝、根、果実などすべての部位が有毒で、オレアンドリン、アディネリン、ギトキシゲン、ジギトキシゲンなど複数の有毒成分を含んでいます。周辺の土壌にも毒性を含みます。生木を燃した煙も有毒です。葉を腐葉土に利用しても1年間は毒性が残るため、腐葉土にする際にも注意が必要です。中毒症状は、嘔気・嘔吐、倦怠感、下痢、めまい、腹痛などです。過度に恐怖心を抱かず、正しく知って適切な用途や距離感で植物と永くつきあいたいものです。

(参考資料:「ウィキペディア」ほか)

# 植物の病害虫

## その25 「ブドウの黒とう病」

### 1 発生状況

古くから道内に発生している病害です。1954、64、66年などに後志支庁以南で多発したと記録されています。昨年緑のセンターに被害果が持ち込まれました。



### 2 病徴

葉、果実、新梢、巻きひげなどに発生します。はじめは黒褐色円形の<sup>こくかつしよく</sup>小斑点を生じ、のちに<sup>しょうはんてん</sup>拡大して中央部が<sup>はいほくしよく</sup>灰白色、周辺部が<sup>せんこうしよく</sup>鮮紅色～<sup>しこくしよく</sup>紫黒色の<sup>かんぼつ</sup>陥没した病斑となります。葉では<sup>みやくじょう</sup>葉脈上に径2～5mm病斑を生じ、病斑部は古くなると脱落しせん孔します。病斑が多数生じると葉が<sup>ゆがんだり</sup>ゆがんだり巻き込んだりします。花は開花期に発病すると黒色となり<sup>こし</sup>枯死して花流れをおこします。果実では幼果に発生すると<sup>こくかつしよく</sup>黒褐色の円形病斑となり、被害果は肥大が<sup>そがい</sup>阻害されます。

### 3 伝染経路

病原菌は<sup>けっかほし</sup>結果母枝や<sup>びょうはんそしま</sup>巻きひげの病斑組織で越冬します。翌春、<sup>みずしつ</sup>水湿を得ると病斑から<sup>ぶんせいし</sup>分生子を生じ、これが降雨によって分散され、若い<sup>なんじやく</sup>軟弱なブドウ組織に感染します。感染後1～2日で病斑が形成され、間もなく<sup>ぶんせいし</sup>分生子が生じます。この分生子は<sup>にじでんせんげん</sup>二次伝染源となります。

### 4 発生環境

ブドウの生育期前半に雨が多い年は多発します。特に6月中旬～7月上旬に冷雨が続き、風を伴ったときは広範囲にまん延します。

### 5 防除方法

- (1) 罹病した<sup>りびょう</sup>結果母枝および<sup>けっかほし</sup>巻きひげは処分します。
- (2) <sup>ほうがちよくこ</sup>萌芽直後から7月中旬まで薬剤散布を行います。  
(マンゼブ水和剤、チオファネートメチル水和剤、ベノミル水和剤等…いずれも製品名です)
- (3) 窒素肥料の過多による<sup>なんじやく</sup>軟弱、徒長の生育を避け、カリ肥料を十分に施します。
- (4) 雨よけ栽培、袋掛け、小さな株ならビーチパラソルで雨が当たらないようにします。

# 北海道の青空に映える‘ラッセル・ルピナス’

マメ科 ハウチワマメ(ルピナス)属 北アメリカ原産 耐寒性多年草

初夏の北海道を彩る花の一つで、市の郊外を車で走りますと農家の庭先や家の跡地などでよく目立つ花がこの‘ラッセル・ルピナス’です。単に‘ルピナス’とも呼ばれたり、花の姿がフジの花に似ていることから‘ノボリフジ(昇り藤)’とも呼ばれ古くから親しまれています。以前、著名な園芸家が初夏のイベントで旭川に来られた時に「北海道にはルピナスの花が良く似合いますね。特に旭川は気候的にも雄大な景色にもこの季節にピッタリの花ですよ。」とお話しされていたのを懐かしく思い出されます。確かに、梅雨で蒸し暑い本州では1年草扱いですが、初夏のさわやかな北海道では、宿根草として毎年芽を出して元気にすくすくと育ち、青空に向かって真っすぐ伸びる姿にはどこか感動を覚えます。また、色とりどりの花が咲き誇る群生地を見ますとこれまた圧巻です。

## 《栽培のポイント》

■ **植える場所**: 日当たりと水はけが良ければやせ地でも良く育ちます。酸性土壌は嫌いますので石灰で調整してください。

■ **植付け**: ポット苗は春に植えつけます。直根性で移植を嫌いますので根鉢をくずさないように植えつけます。

■ **水やり**: 過湿を嫌いますので露地では不要です。鉢植えは乾いたらタップリ与えます。

■ **肥料**: 露地では春に緩効性化成肥料を少量施します。鉢植えは緩効性肥料を元肥で、生育期には液肥を少量与えます。

■ **殖やし方**: 春6月頃にタネで殖やします。硬実種子ですので、1昼夜水に浸けてから露地に直接播くかポットに播きます。



[ラッセル・ルピナスの白花]

(参考資料: NHK 出版「趣味の園芸」ほか)

## 展示室の植物 (61)

### フリーセア・スプレデニス (別名: トラフアナナス)

学名: *Vriesea splendens* パイナップル科 フリーセア属



[フリーセア・スプレデニス]

パイナップル科の植物はアナナス科ともいわれ、アメリカ大陸などの熱帯・亜熱帯を中心に約 60 属 1400 種が分布しています。そのうちフリーセア属は中・南アメリカなどに約 230 種あるといわれています。緑のセンターでも *V.スプレデニス*と *V.ペルマーニー*の2種を育てています。

今回紹介します *V.スプレデニス*は南アメリカのギアナ原産で、葉に黒紫色の虎の縞のような模様が入ることから「トラフアナナス」と呼ばれ、葉は放射状につき縁にトゲがなく弓状に反り返り成長します。株の中心から槍の穂状の細長い真っ赤な「花茎」が伸びてきます。これは「花ほう」と呼び、「がく」が変化したもので3か月ほど楽しむことができます。花ほうの間から小さく顔を出す黄色い筒状ものが本来の花です。もともとこの植物は、樹上で根を張って生育する「着生植物」ですので、通気性がよく水はけのよい水ゴケやバークなどで育てます。夏場の強い日差しに長い時間当たると葉焼けし枯れる恐れがありますので、必ず半日陰の場所に置き育てます。

(参考資料: 山と溪谷社「山溪カラー名鑑 観葉植物」、保育社「観葉植物①」ほか)